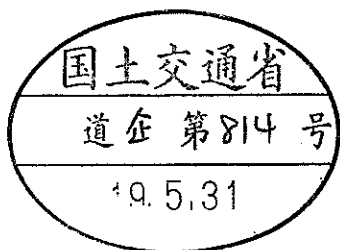


市野  
役  
所縣



19 建収第 8 号  
平成 19 年 5 月 8 日

国土交通省道路局長 殿

長野県大町市長 牛 越



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (回答)

日頃、道路整備の推進を通じ、均衡ある国土の発展にご尽力いただき深く感謝申し上げます。

平成 19 年 4 月 2 日付国道企第 114 号で依頼のありましたこのことにつきまして、下記のとおり回答いたします。

つきましては、地域住民の切実な声を受け止めていただき、地方道路の整備促進のため、引き続き最大限のご尽力を賜りますよう、お願い申し上げます。

#### 記

#### 1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

当地域の地理的特性を考えた時に、フォッサマグナが走る中央構造線上に位置することから、住民の生命と財産を守るため、災害への備えと災害に強い道路の整備、そして緊急時における救急搬送が出来る道路の確保が緊急の課題です。これは、平成 7 年 7 月の豪雨災害におきましては、国道 148 号と JR 大糸線が濁流にのまれて流失したため、住民の生活が長期にわたって制約を余儀なくされたばかりではなく、地域の産業と経済にも大きな打撃を受けたことの教訓によるものであります。そしてこのことが、糸魚川市と大町市を結ぶ高規格の幹線道路の必要性を強く認識したところ です。

また、全国的に少子高齢化社会を迎え、都市部への人口集中現象が起こり、地方都市においては人口減現象が生じています。産業のグローバル化が進み、高速化が必須の環境となった産業界にとりましては、高速交通網の不便な地域は魅力が乏しいものとなる傾向があります。地方都市の住民が健康で文化的な生活を維持していくとともに、国土の均衡ある発展を進めるためには、企業立地や観光振興など、交流の拡大による経済の活性化が欠かせません。更に国民の財産である国立公園及び国営公園の存在価値を、より多くの国民が享受できるようにするためにも、移動時間の短縮が不可欠です。また、これらの公園を訪れる観光客の中には、北陸地方や東北地方の日本海側ばかりではなく、関西地方からも糸魚川市を經由し、国道 148 号を利用している方たちが大勢いるのも事実です。

以上のことから、現在は国道 148 号の 1 路線に頼っている当地域ですが、同国道は豪

雨や豪雪などの災害のたびに通行止めの規制がかかり、住民にとっては災害時の地域の孤立と安全、疾病時に適切な医療が受けられる医療機関への搬送に対する不安が拭いきれません。災害や生命の安全に対する備えから、同国道の整備促進を継続されますとともに、高速化に対応できる新たな幹線道路の建設を強く望むものであります。

当地域におきましては、鉄道の電化が遅れ、列車の便数が少なく、高速交通網として期待の高い高速道路は、インターチェンジから相当の距離があり、こうした地域の道路整備を、最優先して実施されるべきと考えます。

当地域住民の悲願であります地域高規格道路の整備を重点的に推進されますことを切に要望致します。

## 2 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

国民の税金を財源として道路を建設することから、できるだけ経費のかからない方法で道路建設をすることが必要と考えます。

そのための一つの方法として、真に整備が必要な道路の整備について、事業期間の短縮により早期に効果を発揮させるため、重点的に事業費を投入していただくとともに、平成15年5月2日付国都調第2号及び国道経第4号で通知のありました、「地域高規格道路の構造要件の見直し」を地域の実情に合わせて積極的に活用されるよう要望致します。

[担当 建設課庶務係]